

KELES Newsletter

関西英語教育学会報 2019年度 第2号

事務局：〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

大阪教育大学 教育学部 教員養成課程 橋本健一研究室内

E-mail: kelesoffice@gmail.com 学会ウェブサイト: <http://www.keles.jp/>

2019年11月17日発行



巻頭言

Fair is fair.

関西英語教育学会 (KELES) 会長 里井久輝 (龍谷大学)

秋も深まってまいりましたが、会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

今年はラグビーのワールドカップが日本で開催され、『ワン・チーム』日本代表がさわやかに大健闘し、大きな話題になりました。南アフリカの優勝では、ついクリント・イーストウッド監督の『インヴィクタス』を思い出しましたが、どのチームも国の名前を背負ってはいませんが、人種や民族を超えて選手たちが真摯に活躍する姿に、スポーツ音痴の私ならずとも多くの方が感銘を受けたのではないのでしょうか。

「スポーツはもとより英国では『fair』であることが最重要視される」と、その昔授業で習ったことを鮮明に覚えています。そういえば、英国発祥の多くのスポーツの基本はfair playに徹することだろうし、それに反する行為はfoulとして明確に否定されます。

foulではなくfairであること、これはスポーツだけではなく、どのような場面でも常に必要とされる姿勢だと思えます。by fair means or foul (手段を選ばず) という言い回しがありますが、そうではなくて高い目標であればあるほど手段を選び、当事者に対してfairであるこ

とが求められるのではないのでしょうか。たとえば先日見送られた大学入学共通テストの民間試験の導入でも、当事者たる受験生に対してまずfairであることをきちんと心がけていれば、迷走することも透明性に欠けることもなかったことでしょう。

『Fair is foul, and foul is fair.』御案内の通り、これはシェイクスピアのマクベス第1幕第1場の最後のところで出てくる3人の魔女たちの台詞（なんだか昨今の内外のニュースを聞いた時の気持ちを代弁しているように聞こえます）で、語頭の子音/f/と二重母音が連続する印象的な表現です。本来両極の概念であるfairであることとfoulであることが等値され、善悪の倫理感覚の方向性を喪失するマクベスの将来を暗示する恐るべき台詞ですが、fairであることの重要性『Fair is fair.』を確認する自らへの戒めの言葉ともしたいと思います。

さて、KELES関西英語教育学会では、会員の皆様のためのKELESセミナーを12月に2回、そして2月には卒論・修論研究発表セミナーを予定しております。来る12月7日(土)は「外国語学習者の言語情報処理の自動化プロセスをさぐる」をテーマに第47回セミナーを開催

いたします。最新の意義深い研究とその英語教育への実践の一端を共有できる素晴らしい機会になるかと存じます。多くの御参加をお待ち

いたしておりますとともに、会員の皆様と御一緒させていただけますことを心より楽しみにいたしております。

報告 関西英語教育学会2019年度 第46回 KELESセミナー

開催日：2019年10月6日（日） 会場：大阪府立大学・i-Siteなんば

毎年3回程度、英語教育研究の各論や実践で起こっている事象を取り上げたテーマでKELESセミナーを実施しています。今年度の第1回目となるセミナーでは、「英米文学と英語教育の接点」をテーマとして、同志社大学の玉井史絵先生、関西外国語大学の安田優先生に、多様な視点から想像力を働かせて文学作品を解釈する奥深さや、そのような力をどのように授業の中で育てるかという実践について、たいへん興味深いお話を拝聴することができました。講師をお引き受け下さった両先生をはじめ、ご参加くださった皆様、会場を提供して下さいました関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

以下、それぞれの講演の報告を記します。

講演 1

「文学研究は英語教育にいかに関与できるのか？」

玉井 史絵（同志社大学）

まずは玉井史絵先生ご自身についてご説明頂き、文学研究者だからこそ感じる英語教育に纏わる疑問からお話し下さった。例えば、情報処理モデルに依拠した概念（input, process, memory）が、人間を論ずるに適しているか。あるいは、学習者のemotionが排除されてはいまいかという点である。具体的に、読む活動で時間の要した学習者を熟達度が低いと判断する場合、処理能力だけではなく人間だからこそその要因（感動・共感）まで十分に考慮しているかが疑わしいと指摘された。

次に、セミナーの参加者を「文学研究」の世界へと誘うべく、夏目漱石の『吾輩は猫である』を用いて事例を示された。引用箇所を要約すると、猫が試しに餅を口にしてみても喉に詰まらせ煩悶する。焦ってかけ廻るが、その様子を見た人間たちは「げらげら笑っている」。ある種滑稽な場面である。しかし、観方次第では——「猫」として読む——悲劇。猫は命の危機を感じて助けを乞うたにも拘わらず、切実な想いが人間たちには伝わらない。苦しみが理解されない猫から、イギリス留学で苦しんだ作家漱石自身の姿すら透けて見える可能性にまで言及された。文学研究とは、「表現されているが抹殺されている声を拾い上げること」と言い表された。

また、先行研究において言語理解・文化理解・人格陶冶の観点では文学が評価されてきた歴史を提示された。さらに、日本では文学が顕著に排斥されている現状を例証しつつ、シンガポールでの対照的な見解をご紹介頂いた。“The study of Literature encourages students to enter imagined worlds and explore, examine, and reflect on both current and timeless issues, as well as their individuality and humanity”との精神は、日本の指導要領には窺えないものである。

上述の疑問、手解き、先行研究を踏まえ、先生ご自身が大学で行うLittle House on the Prairieの授業実践例をご教示下さった。

先生によると、読書とは元来「共同の営み」であった。コミュニケーション能力の育

成が強調される今日の英語教育において、文学研究が貢献する可能性を示唆され講演を終えられた。

(報告者：京都大学大学院生 杉野 久和)

講演 2

「文学を用いた授業の可能性—物語性のある素材を用いて学生の知的興味と学習意欲を高める」

安田 優 (関西外国語大学)

安田優先生のご講演は、普段の講義で使用されているパワーポイント中の自己紹介からスタートされた。その段階で、安田先生のユーモアに溢れた性格が垣間見えた。

ご講演としては、安田先生ご自身の文学教材を取り入れた授業実践のお話を中心となった。特に印象に残ったのは、Ernest Hemingwayの代表的な短編 ‘Cat In The Rain’を題材とした実践である。本作は、私自身が英米文学専攻の学部1回生の頃、初回の講義で講読した題材で非常に思い出深い。私自身、英文を「読める」と過信していた時期に、いろいろな意味でその自信を打ち砕かれ

た作品であり、短編ではあるものの、非常に読む際に頭を使う小説である。本題材をもとに英文を読み解くには文化的背景や象徴を理解する力、語り手の役割や文学論など様々な知識を統合しなければならず、「英文を読む」ということについて考えさせられた。普段、授業では無味乾燥な英文を読む(まされる)機会が多い英語教師こそ、息抜きとして(もちろん自己研鑽としても)文学作品に触れる必要性を感じさせられ、また、近年社会を取り巻く様々な英語教育論の内容の薄さについて考えさせられるご講演であった。

授業実践の面においても、学生の疑問を引き出し、そこから本論へ進めることができるように工夫されており、文学研究がいかにか実学的な素養を持ちあわせ、移りゆく社会の中で、ある種の普遍的な価値を持っているかが体感できるように構成されていた。

機会があれば(もちろん「許されれば」であるが)、安田先生の講義に潜ってみたいものである。

(報告者：大阪府立大学高専 谷野 圭亮)

学会事務局からのお知らせ

◆第47回KELESセミナーのお知らせ

テーマ：外国語学習者の言語情報処理の自動化プロセスをさぐる

第1部：シンポジウム『外国語学習者の外国語運用能力はいかに熟達化するか』
鳴海 智之 先生 (兵庫教育大学)
橋本 健一 先生 (大阪教育大学)
島田 浩二 先生 (福井大学)
濱田 真由 先生 (神戸大学)

第2部：講演『外国語学習者の言語情報処理の自動化をめぐる—基礎理論と授業実践のインターアクション—』
横川 博一 先生 (神戸大学)

日時：2019年12月7日(土) 13:00-17:00
(12:30受付開始予定)

会場：近畿大学 東大阪キャンパス
〒577-8502

大阪府東大阪市小若江3丁目4-1

資料代：会員無料・非会員1,000円

詳細(ウェブサイト)：

http://www.keles.jp/news/keles_seminar_47/

*事前参加登録をお願いいたします。

◆第48回KELESセミナーのお知らせ

第48回セミナーは外国語学習における動機づけの研究と授業実践について、古賀功先生と

前田哲宏先生（ともに龍谷大学）をお招きして、お話いただく予定としております。詳細は追ってウェブサイトやメールでお知らせいたします。ご予約いただけましたら幸いです。

日時：2019年12月22日（日）13:00-17:00
（12:30受付開始予定）

会場：龍谷大学 梅田キャンパス
〒530-0001 大阪市北区梅田2-2-2
ヒルトンプラザウエストオフィス
タワー14階

資料代：会員無料・非会員1,000円

◆編集後記

2019年もあっという間に残り1ヶ月というところまで来ました。「今年は特に早く感じましたね。」などという言葉を交わすのは毎年のことですが、今年はその実感が強いです。時の流れや世の中の変化は激しいですが、何とか立ち止まり、地に足をつけて英語教育について考えたいものです。年末のセミナーや卒修論セミナーがそんな場になれば良いと思います。皆様のご参加、心よりお待ちしております。（KH）

◆第23回卒論・修論研究発表セミナーのお知らせ

日時：2020年2月9日（日）

会場：近畿大学 東大阪キャンパス
〒577-8502

大阪府東大阪市小若江3丁目4-1

参加費：会員・非会員とも 500円

当日は有本純先生（関西国際大学）を講師にお迎えしてスペシャル・トークを開催いたします。卒業論文・修士論文を完成させた暁には、こちらで是非発表していただければと思っております。指導学生をご担当の先生方におかれましては、発表（口頭発表またはポスター・デモ発表）を勧めていただければ幸いです。

詳細は同封のフライヤー・KELESウェブサイトをご覧ください。

◆各種お問い合わせフォームについて

<http://www.keles.jp/>

暫定的にGoogle Formsを用いたお問い合わせお問い合わせフォームを設置しております。下記に関するお問い合わせはそちらから事務局にお知らせください。

学会費・学会誌・研究大会・各種セミナー・入退会・会員情報の変更・その他学会全般に関するお問い合わせ

